

平成26年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立上星小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5
(資料) 指導や学習・生活習慣と学力との関係	P. 6



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが、昨年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）

国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）

【中学校】

国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）

国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成26年4月22日（火）



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 話し合いの観点に基づいて情報を関係づけること

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 目的に応じて話し合いの視点を整理すること
- 討論の際に質問の意図を捉えること

話す・聞く力

24年度まで取り組んでいた国語科の校内研究の中で発言時の手立てとして、話型を掲示して意識させていることが成果となって表れた。

- 文の意味のつながりを捉え、仮定の表現として、適切なものを捉える力
- 国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する力

《努力を要する所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く力
- 「～たり」という表現に直して書くなど複数の事柄を並列の関係で書く力
- 故事成語の意味と使い方を理解する力

言語についての知識・理解・技能

言語能力については日々の積み重ねが大切であり言葉に触れる機会を増やす必要がある。読書週間などを活用したり、朝読書の推進によって本と触れ合う時間を確保したりして、より多くの言葉に接する機会を増やすことも必要である。

- 付箋に書かれた内容を関係づけながら、最初にもった疑問を捉える力
- 課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む力

《努力を要する所》

- 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える力
- 詩の解釈における着眼点の違いを捉える力

読む力

- 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く

書く力

詩に関する理解力に課題が見られるので、詩にじっくりと向き合い、自分の気持ちを表現させることが必要である。

今後の具体的な取組

- 「言語についての知識・理解・技能」については、漢字学習では一過性のものにならないように繰り返しの学習が必要である。読書活動の充実を図り、様々な言語と出会う場をつくることも必要である。
- 「詩の学習」については、詩の解釈の時間にゆとりをもち、自分の感じたことを書きながら表現する活動を増やす必要がある。
- 「話す・聞く」については、他教科においても話し合う時間の充実を図りさらに力をつけていく。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 繰り上がりのある加法の計算
- 小数第1位までの減法の計算
- 二つの数量の関係を、□、△などの記号を用いて式に表すこと



数量や図形についての技能

- 立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係



図形についての知識・理解

算数の学習に苦手意識を感じている児童が多いこともあり、簡単な計算問題から「できた」経験を積み、「楽しい」につなげられるようにしている。

図形の学習を楽しんでいる児童が多く、意欲的に取り組む様子が見られる。校内研究で対称な形に取り組んだ時も、既習事項をうまく活用して問題に向き合うことができた。

《努力を要する所》

- 割合が1より大きい場合の比較量の求め方
- 割合が1より小さい場合の比較量の求め方
- 単位量当たりの大きさの求め方



数量についての知識・理解

問題を数直線やテープ図で表すことは意識して取り組んだが、それが妥当な数値かどうか、問題場面に戻って確認できるようにすることが必要である。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された場面から計算の結果の見通しをもち、2位数×1位数の筆算をすることができる。
- 全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる。
- 示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる。



数量や図形についての知識・理解

提示された場面やグラフから、自分の考えに結びつくものを選択することができる。

図形の問題は、活用においてもよくできていた。

《努力を要する所》

- 示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述する。
- 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる。
- 示された情報を整理し、道筋を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる。



数学的な考え方

自分の考えを言葉や文章で表すことが苦手である。友達と意見交流の場を設け、自分とは違う文章表現や新しい考え方に出会うことで、児童の苦手意識を取り除くようにしているが、まだまだ自信をもつまでに至っていない。

今後の具体的な取組

- 日常生活に結びつけた、様々なパターンの文章問題に触れる機会を設ける。
- 習ったことやキーワードを掲示し、児童が説明をする際の手だてとし、既習の学習を前提に新しい学習事項が考えられる環境をつくる。引き続き、友達との意見交流も続けていく。
- 毎時間、図・式・言葉・数直線を結びつけながら、問題場面を捉えられるようにする。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

○総合的な学習について
72.9%の児童が「自分で計画を立てて情報を集め、発表する学習活動に取り組んでいる」と回答(全国63.8%)

○国語について
34.7%の児童が「国語は好き」と回答(全国22.9%)。「どちかかというとき好き」を含めると63.5%(全国59.2%)となった。

《課題と思われる所》

○5年生までの授業について
77.9%の児童が「友達同士で話し合い活動を行っていた」と回答(全国84.9%)。児童の5人に1人は話し合いに参加できていなかった。また、56.8%の児童は「授業の最後に学習内容を振り返っていた」と回答(全国71.9%)。約半数の児童が学びの振り返りができていないと感じていた。

○国語について
国語が好きな児童が多い一方で、内容の理解については18.7%がわかりにくさを感じていた。自分の考えを話したり書いたり、相手に伝わりやすいように構成を考えたりすることが苦手な児童が多い。

○算数について
算数は好きですか
本校58.4%(全国66.1%)
内容はよくわかりますか
本校70.3%(全国79.6%)
問題をもっと簡単に解く方法があるか考えますか
本校69.5%(全国79.4%)
算数に対する苦手意識をもつ児童が多い。

生活について

《よかった所》

○家庭でのコミュニケーション
家族に学校での出来事を話す児童が89.8%(全国80.4%)と全国より大きく上回った。

○きまり・約束について
学校のきまりを守っている
本校97.4%
友達との約束を守っている
本校97.4%
本校はきまりや約束を守る児童が非常に多いことがわかった。また、守れないという回答はともに0%であった。

《課題と思われる所》

○自分の考え・意見の発表
友達の前で発表することに対して、得意な児童が多い半面、苦手な児童も多い(二極化している)。

○地域への参加
地域や社会への関心
本校52.5%(全国62.9%)
地域への行事参加
本校45.7%(全国68.0%)
地域や社会をよくするため、何をすべきか考えることがある
本校33.1%(全国42.5%)
地域や社会への関心・行動・考えがいずれも全国より低い。地域の行事に参加している児童が50%を下回っている。



今後の具体的な取組

学習面について

- ・授業では児童の実態の把握に努め、児童の自信になるようにスモールステップで課題を設定することを意識していく。また、学習の振り返りを大切にしていく。

生活面について

- ・道徳授業や総合的な時間を活用して、地域社会への所属意識を高めて、地域の行事への参加を促したい。

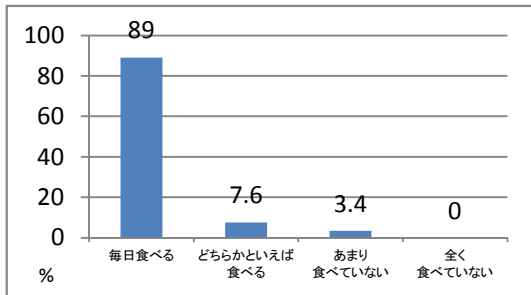
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 規則正しい生活習慣を身につけていきましょう。

「早寝、早起き、朝ご飯」を続けて実践していきましょう。

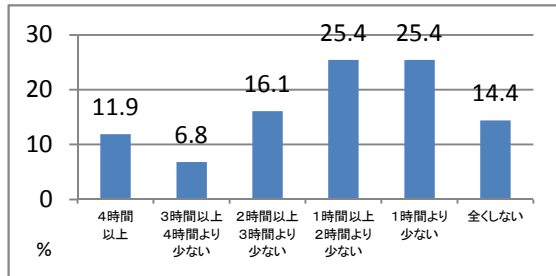
朝食を毎日食べていますか



2 家庭で決めたルールを守りましょう。

テレビ・ゲーム・携帯電話・スマートフォンに費やす時間を家族で決めて守っていきましょう。

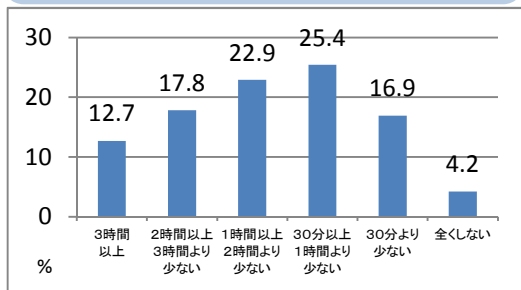
普段一日当たりどれぐらいの時間ゲームをしますか



3 家庭学習の習慣を身につけていきましょう。

「10分×学年」が家庭学習の目安です。学習状況を見守り、ほめて励ましてください。

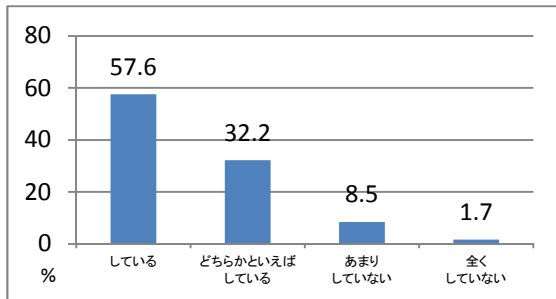
普段、一日当たりどれぐらいの時間勉強していますか



4 親子で弾む会話をしていきましょう。

普段の生活や学習、さらに社会の出来事や将来などについて積極的に話し合みましょう。

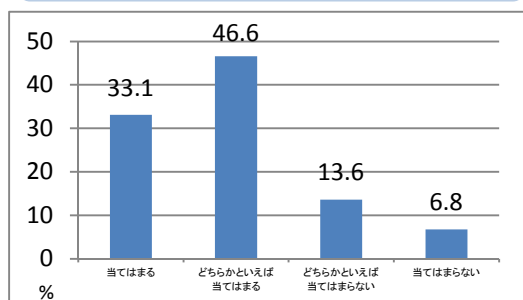
家の人に学校でのできごとについて話をしますか



5 小さな成長を認め、励ましていきましょう。

自分のよさに気づき、自信が持てるよう温かく励ましていきましょう。(自己肯定感の向上)

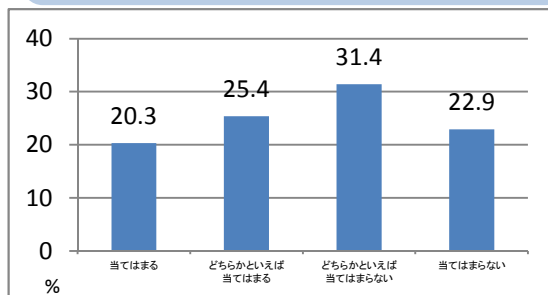
自分にはよいところがありますか



6 今、住んでいる地域に愛着をもちましょう。

地域の行事に参加することで知り合いができ、安全・安心な生活を送ることができます。

今、住んでいる地域の行事に参加していますか



資料

指導や学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ており、今後の指導や家庭・地域への呼びかけに生かして行きたいと考えています。

学校における指導と学力との関係

次のような指導を行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
さらに、学習意欲や家庭での学習時間等についても高い傾向にある。
(教科に関する調査、学校質問紙調査より)

【指導方法・学習規律】

- ・ 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど)の維持徹底
- ・ 学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導
- ・ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与える
- ・ 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導

【国語科・算数科の指導方法】

- ・ 発展的な学習の指導
- ・ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業
- ・ 算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業

【言語活動】

- ・ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
- ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ・ 発言や活動の時間を確保した授業
- ・ 学級やグループで話し合う活動
- ・ 資料を使って発表ができるよう指導
- ・ 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導

【総合的な学習の時間】

- ・ 総合的な学習の時間における探究活動(課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導)

【家庭学習】

- ・ 調べたり文章を書いたりする宿題を与える

【研修】

- ・ 教職員が、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映

児童の学習・生活習慣と学力との関係

次のような児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
(教科に関する調査、児童質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・ 国語、算数に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・ 学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・ 自分で計画立てて勉強をする
- ・ 学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・ 読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学校生活】

- ・ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・ 先生は、自分のよいところを認めてくれると思う

【基本的生活習慣】

- ・ 朝食を毎日食べる
- ・ 毎日、同じぐらいの時刻に寝る

【メディアとの関係】

- ・ 携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い
- ・ テレビゲームをしている時間が短い

【家庭でのコミュニケーション等】

- ・ 家の人と学校での出来事について話をする
- ・ 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【社会に対する興味・関心】

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・ 新聞を読んでいる
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る

【自尊意識・規範意識】

- ・ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・ 学校のきまり・規則を守っている
- ・ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

「えびなっ子しあわせプラン」ってなあに？

「えびなっ子しあわせプラン」は今年度から平成28年度までの3年間の海老名市の教育プランです。

ひとりひとりの海老名の子どもが、将来、しあわせに生きるために必要な「3つの力」を小・中学校の義務教育9年間で、学校や家庭、地域の教育をとおして、確実に身につけることを目的としています。

◇◆しあわせに生きるために必要な「3つの力」◆◇

学 力

大人になっても学習をつづけるために
基礎的な学力と学習意欲を身につけよう！



.....
教員の授業力を高めます。（授業改善の取組）



.....
小中一貫教育を進めます。（試行校での研究）



.....
市費の教員やボランティアを配置します。

集団力

人間関係を作り、集団の中で自分の役割を果たし、
自分を生かす力を身につけよう！



.....
人間関係作りの学習計画を作成します。



.....
いじめや不登校の問題に積極的に取り組みます。

健康安全力

自分の健康や安全に気をつけて、
いつまでも楽しく生活する力を身につけよう！



.....
体力・運動能力の向上をめざします。



.....
自分の命を守るための学習計画を作成します。

学校と家庭と地域がスクラムを組んで子どもを支えます



みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いします。

海老名市教育委員会



平成26年12月